

都市再生整備計画 事後評価シート  
恵那東地区

平成25年3月

岐阜県恵那市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県		市町村名	恵那市		地区名	恵那東地区			面積	99ha		
交付期間	平成20年度～平成24年度		事後評価実施時期	平成24年度		交付対象事業費	2,889百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路：御所の前牧田線（当初：垣外後田線）、大井町298号線（当初：市道154号線）、大井町250号線（当初：市道152号線）、大井町309号線（当初：市道156号線）、大井町305号線（当初：市道158号線）、大井町301号線（当初：市道159号線）、大井町128号線（当初：市道80号線）、大井町183号線（市道100号線）										
		提案事業	地域創造支援事業：防犯灯設置事業 事業活用調査：事業効果分析調査										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設：地域防災施設（避難路誘導看板） 高質空間形成施設：中山道修景整備、通学路歩道整備	整備計画期間内の工事完了・供用開始が不可能となったため				地域生活基盤施設については、当初計画にはなかった指標4に関わる変更であるが、当該事業の削除も考慮して数値目標を設定しているため、数値目標に対する影響はない。 高質空間形成施設については、指標1及び指標2に関わる変更であるが、数値目標の設定上、当該事業による数値への影響は少ないと考えられるため、数値目標は据え置く。					
		提案事業	地域創造支援事業：花いっぱい運動推進事業	整備計画期間内の工事完了・供用開始が不可能となったため				指標1に間接的に関わる変更であるが数値目標の設定上、当該事業による数値への影響は少ないと考えられるため、数値目標は据え置く。					
	新たに追加した事業	基幹事業	道路：御所の前牧田線（排水路）、大井町279号線、大井町272号線、羽根平船山線、大井町285号線、恵那駅惣の神線（交差点）、恵那駅惣の神線（神ノ木橋） 地域生活基盤施設：地域防災施設（避難空間：大井小学校体育館、中山道大井宿広場（旧恵那市まちなか多目的防災広場）、耐震性貯水槽：中山道大井宿広場内（旧恵那市まちなか多目的防災広場）	道路：御所の前牧田線の整備に伴う交通動線の変化による本路線の改良を求めた地元意向や地区内の移動の利便性と歩行者の安全性を確保するために追加した。 地域防災基盤施設：建て替えが必要となった体育館を有事には避難所としての機能を備える施設として整備するためと、防災拠点としての広場の機能や利活用についての再検討に伴う事業の追加した。				道路については、指標1に間接的に関わる変更であるが数値目標の設定上、当該事業による数値への影響は少ないと考えられるため、数値目標は据え置く。 地域生活基盤施設については、これら事業を追加したことにより、当初計画にはなかった地震・災害などの防災性に着目した指標4を追加した。					
		提案事業	地域創造支援事業：柳ヶ壺線整備事業	排水路対策及び歩行者の安全性を確保するために事業を追加した。				指標1に間接的に関わる変更であるが数値目標の設定上、当該事業による数値への影響は少ないと考えられるため、数値目標は据え置く。					
交付期間の変更	当初	平成20年度～平成24年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期	
	指標1	身近な生活道路の整備の満足度	%	6.0	基準年度 H16	35.0	目標年度 H24	モニタリング	評価値 41.1	○	あり なし	道路の拡幅や交差点改良により、すれ違いによる接触事故の危険性が減少するとともに、歩道整備による歩行者の安全性が向上したことにより、身近な生活道路の整備の満足度の増加につながった。	H25.6
	指標2	歩道を使って通学できる生徒の割合	%	29	H19	76	H24		81	○	あり なし	歩道の拡幅や新設整備により歩行者の安全性が高まるとともに、歩道を使って通学できる生徒の割合が増加した。	H25.6
	指標3	地域防犯活動への参加人数	人数/年	242	H19	266	H24		306	○	あり なし	防犯灯機能を兼ねた街路灯の整備や道路整備の検討会の開催により防犯意識の向上につながったこと、地域防犯活動への参加人数増加の要因となった。	-
	指標4	地震・災害に対する安心感の満足度	%	7.7	H20	28.5	H24		10.4	×	あり なし	災害時の避難所を兼ねた大井小学校体育館の建替えや建物が密集する市街地に災害時の避難場所となる中山道大井宿広場（旧恵那市まちなか多目的防災広場）が整備されたが、整備されたばかりということもあり、アンケート結果の数値には反映されなかった。今後、住民への周知や利活用が進むと、さらに満足度は向上すると予想される。	H25.12
3)その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路の拡幅や交差点改良により、車両の接触事故などの危険性が低下した。</li> <li>歩道の拡幅や新設により、歩行者の安全性が高まった。</li> <li>避難所となる体育館の建替えや耐震性貯水槽のある防災広場の整備により、災害時におけるまちの安全性が高まった。</li> <li>中山道大井宿広場（旧まちなか多目的防災広場）については、地元自治会の避難訓練や、イベント（みのりの祭、まちなか市など）で活用されることにより防災意識が高まりつつある。</li> </ul>												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	関係自治会を中心に道路整備建設委員会を立ち上げ、道路事業におけるコンセプトづくりから道路を中心とした地域づくりについて検討した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	地域住民に対して広く情報を発信し、まちづくり計画に対する理解や参画を促すなど、今後は、必要に応じて、地域住民等の参画方法を検討する。			
持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										

## 様式2-2 地区の概要

### 恵那東地区(岐阜県恵那市) 都市再生整備計画事業の成果概要

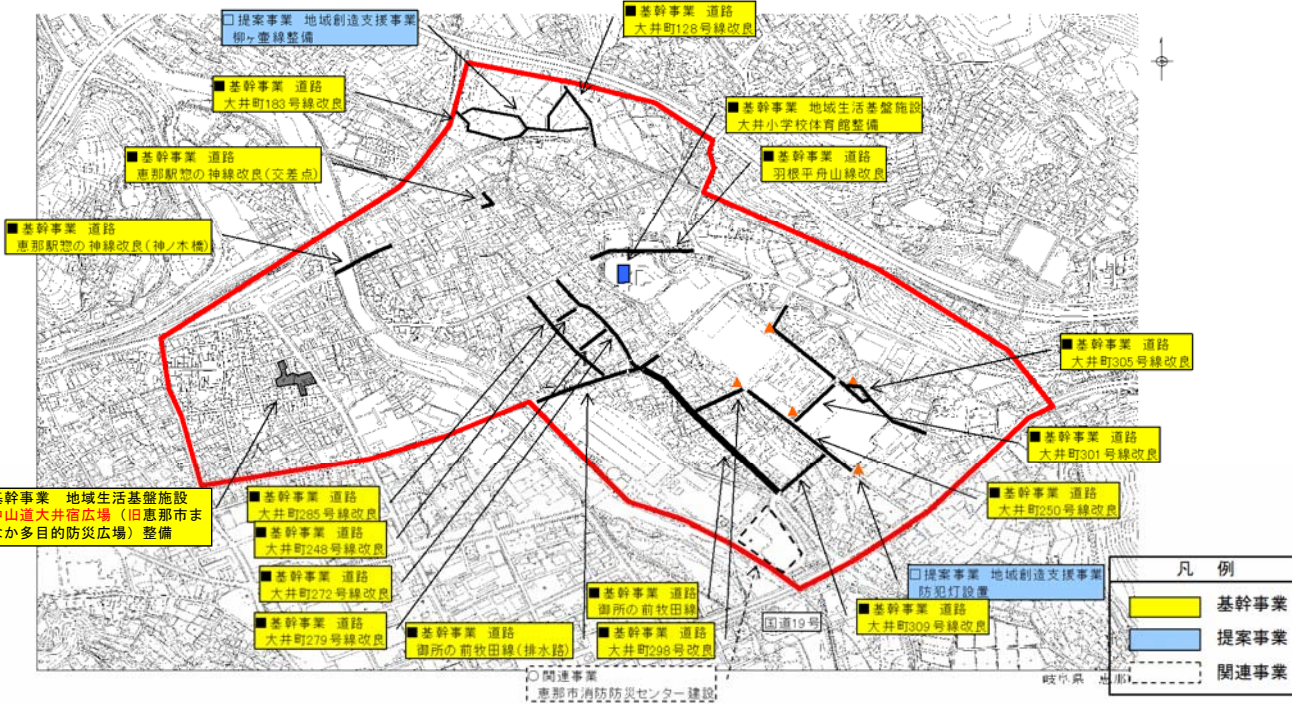
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: 暮らす人、通う人が居心地のいいまちづくり 目標1 自動車と歩行者がともに安全な道路環境づくり 目標2 安心して暮らせる生活環境の創出 目標3 地域の防災性・安全性の向上	身近な生活道路の整備の満足度	単位: %	6.0 H16	35.0 H24	41.1 H24
	歩道を使って通学できる生徒の割合	単位: %	29 H19	76 H24	81 H24
	地域防犯活動への参加人数	単位: 人数/年	242 H19	266 H24	306 H24
	地震・災害に対する安心感の満足度	単位: %	7.7 H20	28.5 H24	10.4 H24



羽根平舟山線



大井小学校体育館



市道大井町305号線



御所の前牧田線

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路の拡幅整備や交差点の改良により、車両の通行がスムーズになり、接触事故などの危険性が減少した他、緊急車両の通行も可能になった。</li> <li>避難所となる体育館の建替えやまちなか多目的防災広場が整備されるなど避難場所の機能が確保されたとともに、生活道路の拡幅整備や排水対策も進み、避難路としての機能が高まった。</li> <li>歩道の拡幅や新たに歩道が整備されたことにより、通学路の安全性が高まった。</li> <li>地区内の道路では、拡幅整備された区間との連結部のボトルネック化や、幅員狭小による自動車のすれ違いの困難性、学校周辺の登下校時の送迎車両による渋滞など、交通渋滞を招く要素がまだ残されている。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩道などを利用する際のマナー向上のための啓発活動や通学路、避難路での安全点検、通過車両のスピードの抑制策など、歩行者や自転車利用者のさらなる安全性を確保する。</li> <li>避難マップの作成や避難訓練など、まちなか多目的防災広場などの防災拠点を活用して、日常から災害時を想定した活動を行う。</li> <li>車道の拡幅整備や交通規制の実施などを複合的にを行うことにより、歩行者等の安全性を確保しながらも、車両のスムーズな通行や渋滞緩和など自動車にも配慮した道路づくりを行う。</li> </ul>